



「支え愛マップ」と「共生ホーム」で 要支援者、高齢者の安心・安全を!



鳥取市若葉台南六丁目自主防災会
会長 山田 義則

1 はじめに

鳥取県鳥取市若葉台南六丁目は、鳥取市の中心部から南へ約7km離れた郊外に位置し、平成元年に入居が始まった新興住宅地で、現在約260世帯、670人が暮らしています。入居当初はいろんな地区からの入居者で、新興住宅地特有の人間関係の希薄さが感じられました。このため住民のコミュニティを図る目的で町内会活動を活発にして、花見や餅つき、納涼祭などの行事を続けており、また自主防災活動にも力を入れ自衛消防隊を結成して訓練を行ったり、防災用資機材の備蓄・整備も行ってハード面での強化を図り、平成25年度防災担当大臣表彰を受賞しました。

2 「支え愛マップ」の作成

入居開始から十数年が経過した頃から少子高齢化の影響（高齢化率27%超）が徐々に

てきました。高齢の一人や二人暮らしの家庭が増え、せっかく入居しても町内環境に馴染めず、将来の不安のため自分の子どもがいる地区に引っ越したり、また老々介護などの課題も発生してきたため、町内会としてソフト面での強化を図ることにしました。

平成19年に老人クラブを結成しました。高齢者の孤独感を無くす狙いがあり当初は皆さんで集まって食事をしたり、グランドゴルフをしたり、旅行に行ったりと盛んでありましたが10年も経つと高齢のため老人クラブの活動に参加できなくなった人や、災害発生時に自力で避難することが困難な避難行動要支援者の増加など、更なる課題が出てきました。

そこで町内会として要支援者への支援体制の構築に取りかかりました。該当と思われる方をピックアップし、町内会長、民生委員、防災会長が連携して自宅を訪れて内容を説明し、また町内の住民に支援者になっていただ

くようお願いしました。要支援者1人につき支援者1人～3人の組み合わせが12組（要支援者14人、支援者25人）出来ました。しかし支援者が仕事や買い物などでいつも要支援者の近くにいるとは限らないとの不安が出て、更に「支え愛マップ」を作って町内全体で支援することにしました（図）。町内の地図に要支援者



図 支え愛マップ（個人情報保護のため住居表示はすべて実際と異なります）



老人クラブの花見



老人クラブによる炊き出し訓練



要支援者の搬送訓練



ふれあい共生ホーム・おいり作り

の名前を記入し、この地図を町内全戸に配付して普段の見守りや災害発生時の支援にあたるというものです。要支援者から「高齢や一人暮らしの自分の名前が漏れて悪徳業者に知られ高額のを買わされたり、泥棒に狙われたりするのが怖い」との理由でほとんどの人が躊躇しましたが、個人情報町外に漏れないよう厳正な取り扱いをするといった条件で、平成27年に要支援者の了解のもと「支え愛マップ」を作り、南六丁目町内全戸に配付しました。時々支援者が要支援者の家に行って「大丈夫ですか？」と声をかけて安否確認をする訓練を行っています。要支援者から「皆さんに見守られているようで安心」という感謝の言葉が返ってきますが、やはり要支援者を安心させるための見える訓練が必要であると感じています。

3 「共生ホーム」の取組

また日常生活のうえで、要支援者に登録されていない家に閉じこもりがちな高齢者の方

に集会所に出てきてもらって、若年層を含む住民皆さんと触れ合う「共生ホーム」も平成28年から行っています。これは町内会の集会所で、おいり（干した飯を炒り、水飴を絡めて丸めたお菓子）作り、ちまき作り、タケノコご飯作りなど旬に合わせた催しものを企画し、町内で回覧板を回して参加希望者を募っていく方法です。社会福祉協議会から補助を頂いているので負担も少なく好評であり、高齢者の方に孤独感や寂しさ感を少しでも和らげていただければと思って、世話人一同頑張っております。

4 おわりに

最後になりましたが「一人も見逃さない」を目標に、要支援者や高齢者の皆さんが孤立しないよう、またいつまでも若葉台南六丁目に住み続けられるよう、町内の皆さんで見守り、そして支援する体制を更に浸透させていただきます。